

Title	上級学習者と母語話者の行為要求表現の違い : 「励ましの手紙」を例に
Author(s)	高梨, 信乃
Citation	現代日本語研究. 2018, 10, p. 1-17
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/70101
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

上級学習者と母語話者の行為要求表現の違い

—「励ましの手紙」を例に—

The Differences in the Use of Directives between
Advanced Learners and Native Speakers:
Based on the Research of the Letters to Encourage Someone

高梨 信乃

TAKANASHI Shino

キーワード：行為要求，上級学習者，母語話者

要 旨

本稿では「励ましの手紙」を資料として，上級学習者と母語話者の行為要求表現の比較を行い，両者の間にみられるさまざまな違いについて述べた。学習者には，誤用と言えるような不適切な使用のほか，相手への配慮を示すために母語話者が行っているような，最適な形式の選択や効果的な使い方ができていない点がみられる。

1. はじめに

本稿では，行為要求を「相手が行為を実現すること（または実現しないこと）を求めたり，容認したりする機能」（高梨 2011）と規定する¹⁾。

行為要求は，相手の行為の発動に関わるため，相手に負担を課す可能性が高い発話機能だと言える。したがって，行為要求に際し，話し手（書き手）と相手の関係，行為実行の負担の大きさなどに応じて適切な表現を用いることは，相手との良好な関係を保持する上で，非常に重要である。

日本語学習者にとって，このような行為要求の表現を使いこなすのが容易でないことは言うまでもない。しかし，母語話者もいつも無意識に軽々と行為要求を行っているわけではなく，状況や相手によっては，相手を不快にさせたり必要以上の負担をかけたたりしないために，迷ったり慎重に考えたりしながら表

現を選んでいないのではないだろうか。母語話者が行為要求表現をどのように使用しているかを学習者と比べてみることは、日本語教育において行為要求表現の指導を適切・十分に行うために有効だと考えられる。

以上のような観点から、本稿では、上級学習者と母語話者の行為要求表現を比較したい。具体的には、書き言葉のうち特定の相手にむけた「励ましの手紙」として書かれた作文を取り上げて、学習者と母語話者の間にどのような違いがあるか、観察することにする。

以下、2節では、調査の前提として、本稿で行為要求をどう捉えるかについて述べる。3節では、調査の資料と方法について述べる。4節で全般的な調査結果を示したあと、5節で学習者と母語話者の違いとして観察できる点について詳しく述べることにする。

2. 行為要求をどう捉えるか

まず、本稿が「行為要求の形式」とみなす範囲を示す。

宮崎・安達・野田・高梨(2002)は、「行為要求の機能をもつ文」を次のように整理している。

(1) 行為要求の機能をもつ文 (宮崎ほか 2002:44)

- 1) 本来的に行為要求の機能をもっているもの
- 2) 本来は別の機能をもっていたが、行為要求の機能に移行し、その機能が定着したと考えられるもの
- 3) 状況に依存して行為要求の含意を派生するもの

このうち行為要求の形式とみなすのは、1) と 2) である。

1) は、命令・依頼文である「しろ」「しなさい」「するな」「てください」などと、勧誘文である「しよう」「しましよう」などである。

2) には、叙述文である「べきだ」「ほうがいい」「といい」「なくてはいけない」などと、疑問文である「しょうか」「たら(どう)?」「てくれないか」など、多様なものが含まれる。

なお、3) は、たとえば「この部屋、寒いね」という文が状況の助けを借りて、相手に対するエアコンをつけるという行為の要求として機能するような場合を指す。このような文は無限に存在し、リストアップできるものではないため、

行為要求の形式とはしない。しかしながら、実際のコミュニケーションにおいて 3) のような文が果たしている役割が小さくないことには、留意が必要だと考える。5. 5で「行為要求の形式を使用しない行為要求」として、こうした文の使用にも目を向けることにしたい。

さて、行為要求の形式である 1) と 2) をあわせて、表 1 に示す²⁾。ここでは行為要求の規定に照らし、大きく 4 つのタイプに分類する。

表 1：行為要求の形式と分類

<p>A 1) 実現することを求める類 (実現要求類)</p> <p>しろ, しなさい, てくれ, てください, お~ください, して, しよう, しましよ, する, こと, ことだ, のだ, てほしい, てもらいたい, とい, ばいい, たらいい, ほうがいい, べきだ, べし, なくてはいけない, なければならない, しかない, しょうか, しないか (しない?), たら (どう)?, ては (どう)?, てくれなにか, てもらえないか</p>
<p>A 2) 実現することを容認する類 (実現容認類)</p> <p>て (も) いい, て (も) かまわない, ても大丈夫, ても平気</p>
<p>B 1) 実現しないことを求める類 (非実現要求類)</p> <p>するな, ないでくれ, ないでください, ないで, てはいけない, てはだめだ</p>
<p>B 2) 実現しないことを容認する類 (非実現容認類)</p> <p>なくて (も) いい, なくて (も) かまわない, なくても大丈夫, なくても平気, ことはない, 必要はない</p>

次に、行為要求の機能をどう捉えるかについて述べておく。本稿では、高梨 (2011) を踏襲し、行為要求の機能を図 1 のような下位類をなすものとして捉えている³⁾。

なお、「禁止」という用語は用いず、行為要求の全ての下位類に「~しない」ことを要求・容認するタイプがあると考え。つまり、図 1 に表された機能の下位類のそれぞれに、〈否定の命令的指示〉〈否定の依頼〉などがあり、それらは非実現要求類と非実現容認類の形式によって表されるという捉え方である。

行為要求の形式と機能の下位類とは、一対一対応ではなく多対多対応の関係

にある⁴⁾。この両者の関係の複雑さは、行為要求表現の学習および指導の難しさに大きく関わっていると言えるだろう。

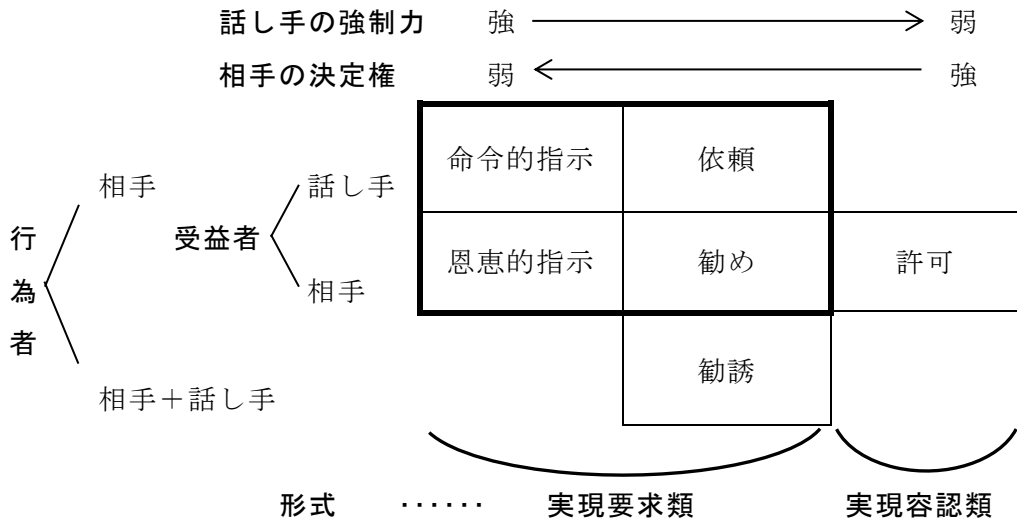


図1：行為要求の機能の下位類

ただ、本稿の考察範囲において、これらの下位類の区別は議論に大きくは関わらないため、必要な場合にのみ言及することし、より大まかな分類となる実現要求類、実現容認類、非実現要求類、非実現容認類の区別に基づいて考察を進めることにしたい。

3. 調査の資料と方法

3. 1. 資料

本稿で資料として使用するのは、「YNU 書き言葉コーパス」(金澤編 2014)における「タスク5 (励ましの手紙)」による作文90編である。

「YNU 書き言葉コーパス」は、「(i) レイティング付きの、(ii) ある程度多数の学習者による、(iii) 各種書き言葉資料を集めたもの」(金澤 2014:3)という特徴をもつコーパスであり、日本語母語話者(日本人大学生30名)、学習者(留学生、中国語母語話者30名・韓国語母語話者30名)の計90名が12のタスクに基づいて書いた作文、計1080編が収められている。さらに、学習者の作

文については、4つの評価基準からタスクが達成できたかどうかについての評価が行われ、達成した数により学習者を上位群・中位群・下位群に分けるといふ作業がなされている。

学習者の日本語能力には多少のばらつきがあるものの、大学での勉学に対応していることから、すべて上級レベルに達していると思わせる。これらの学習者と母語話者とが同一のタスクに基づいて書いた作文を比較できることから、「YNU 書き言葉コーパス」は、本稿の目的に適した資料であると考えられる。

12のタスクのうち、本稿で取り上げるタスク5は、以下のようなものである。

〈2〉タスク5 「入院中の後輩に励ましの手紙を書く」

あなたの後輩は、交通事故に遭い、もう2か月も入院しています。就職活動や卒業論文の時期が近づき、将来に不安を感じているようで、相談に乗ってほしいと頼まれました。実はあなたも後輩と似たような経験をしたことがあります。自分の経験を踏まえ、後輩に励ましの手紙を書いてください。

〈2〉に記されているように、この手紙の目的は相手を励ますことである。相手は書き手にとって後輩という目下の立場ではあるが、困難で不安な状況にあることへの配慮は必要であり、そのことが行為要求表現の使用のあり方にも関わると考えられる。

3. 2. 調査の方法

調査は以下の方法で進める。

まず、タスク5による「励ましの手紙」計90編から行為要求の形式を含む文を目視により抽出する。得られた用例を書き手のグループ（日本語母語話者、中国語母語話者、韓国語母語話者）に分けて整理し、どの形式がどのくらい使用されているか、またどのように使用されているかを観察する。

なお、整理の際には、〈3〉のような「行為要求の目的」も観点に入れることにする。これは、2節でみた〈命令的指示〉〈勧め〉などの行為要求の下位類とは異なるものである。

〈3〉行為要求の目的

① [助言]: 相手にとって有益になるような具体的な助言

- (1) 病院の許可がおりたら、説明会行ってみたらいいと思う。【J007】
- (2) 一人でためこむことはしちゃだめだよ。【J025】
- ② [受入れ表明]: 相手の支援要請を受け入れる用意があることを伝える
- (3) 相談に乗るから電話でもメールでもしてね。【J008】
- ③ [励まし]: 励まし, 回復を祈る挨拶
- (4) これからいろいろ頑張ってね! 【J025】
- ④ [再会にむけて]: 再会にむけた提案, 約束
- (5) 退院したらお祝いしよう! 【J027】

このように、「行為要求の目的」は、その文がもつ行為要求としての機能（たとえば(1)であれば〈勧め〉, (5)であれば〈勧誘〉）ではなく、何のために行為要求をするかを示すものである。手紙（作文）全体の構成と流れの中で個々の行為要求が果たしている役割を考慮するために設定したい。

〈4〉に例として母語話者による作文1編の全体を示す。

〈4〉作文例【J008】

〇〇へ

足の調子はどうですか? こっちは、〇〇がいなくてとっても淋しいです。一日も早く元気な姿を見たいです。

この前言ってた就職活動の件だけど、そんなに焦らなくていいと思います [助言]。私もちょうど〇〇と同じ感じで、入院と就活、卒論が重なって本当にどうしようと思ったけど、本格的に始まるのはもう少し先だし、それまでに、情報収集とか、テスト対策とか頑張ったよ。

就活においてしなきゃいけないのは ・情報収集 ・自己分析 ・面接練習 ・テスト対策 これは全部、病院でもできるでしょ?

むしろ、バイトや部活している人より、就活にかける時間があるんだからラッキーだよ!

卒論についても、私のまわりにもまだやってない人いっぱいいるから、1年年下の〇〇があせることはないよ [助言]。ゆっくり進めていって下さい [助言]。

またなにかあったら、いつでも相談にのるから電話でもメールでもしてね [受入れ表明]。

〇〇が早く退院する事を心から祈ってます。頑張ってね！ [励まし]。

4. 全般的な調査結果

作文 90 編から抽出された行為要求の形式を行為要求の目的によって分けて整理したものを表 2 に示す。表中の J は日本語母語話者, C は中国語母語話者, K は韓国語母語話者を指す。

表 2 : 行為要求の形式の整理

目的	類	形式	使用数		
			J	C	K
助言	実現要求類	しろ	4	1	0
		しな	1	0	0
		しなさい	2	0	1
		して	5	9	9
		てください	9	27	7
		しよう	3	1	1
		しましよう	3	2	1
		てほしい	1	1	3
		てもらいたい	0	0	1
		といい	1	1	0
		ばいい	7	3	2
		たらしい	5	2	2
		たら？	1	0	0
		たらどう	2	2	0
		ては？	1	0	0
		てはどう	2	0	0
		ほうがいい	1	6	3
		なければならない	0	1	1
		しかない	0	1	1
		のだ	1	0	1
		こと	3	0	0
		ことだ	2	0	0
		べきだ	1	0	1
		べし	2	0	0

	実現容認類	てもいい	1	0	2
	非実現要求類	するな	0	0	1
		しない	0	0	1
		ないで	2	2	5
		ないでください	1	0	1
		ないほうがいい	0	0	1
		てはいけない	0	1	0
		てはだめだ	2	0	0
	非実現容認類	なくてもいい	1	2	3
		なくても大丈夫	3	0	0
		なくても平気	1	0	0
		なくてもかまわない	0	1	0
		必要はない	0	2	1
		ことはない	2	1	1
小計		70	66	50	
受入れ表明	実現要求類	しろ	1	0	0
		しな	1	0	0
		なさい	1	0	0
		して	12	1	2
		てください	5	4	3
	実現容認類	ていい	1	0	0
小計		21	5	5	
励まし	実現要求類	しろ	0	0	3
		して	4	4	6
		てください	0	9	3
		しよう	1	0	2
		しましよう	0	4	0
	小計		5	17	14
再会にむけて	実現要求類	して	2	0	0
		してくれ	0	0	1
		てください	0	1	0
		しよう	6	0	2
		しましよう	2	0	2
		のだ	0	0	1
	小計		10	1	6
総計			106	89	75

行為要求の形式の使用数と種類を書き手のグループごとに集計すると、表 3 のようになる。

表 3：行為要求の形式の使用数と種類

	使用数	種類
日本語母語話者 (J)	106	29
中国語母語話者 (C)	89	19
韓国語母語話者 (K)	75	22

行為要求の形式は、日本語母語話者が使用数と種類のいずれについても、もつとも多い。とくに種類に関して、母語話者と学習者の間に一定の差があることに注目しておきたい。

5. 観察

5. 1. 形式の種類に関する学習者と母語話者の違い

使用している形式の種類が母語話者より学習者のほうが少ないのは当然なことと言ってよいだろう。母語話者のみが使用して学習者が使用していない形式は、「しな」「こと」「ことだ」「べし」「てはだめだ」「なくても大丈夫」「なくても平気」である。いずれも日本語教育において文法項目として取り上げられることの少ない形式だと言える。以下に母語話者の使用例を挙げる。

- (6) 何か気分転換になる物見つけなよ。【J022】
- (7) 無理はしないこと！【J002】
- (8) 今できることをするべし！【J011】
- (9) 一人でためこむことはしちゃだめだよ。【J025】
- (10) そんなにあせらんでも大丈夫だよ。【J030】

これらの例にみられるように、母語話者は、「べし」のような文語も含め、多様な形式を用いて行為要求を行っている⁵⁾。同一の作文の中での同じ形式の繰り返しも少ない。

なお、ここで注目したいのは、(6) (7) のように丁寧度が高くなく、多少ぞ

んざいな印象を与える形式も用いられていることである。後輩である相手に対してこのような形式で行為要求をすることは、相手との距離をとらない親身な態度の表明となっている。このような態度は、次の5. 2. 1でみる「相手にかかる負担が少ない形式を選択する」という態度とは方向が異なるものの、広い意味で相手に対する配慮に基づくという点で共通すると考えられる。

一方、学習者のほうをみると、多様な形式の使い分けをみせている作文もあるものの、同じ形式の繰り返しが多い作文がみられる⁶⁾。

5. 2. [助言] にみられる学習者と母語話者の違い

行為要求の目的別にみた場合、行為要求の形式が使用数・種類ともにもっとも多いのが[助言]である。また、実現要求類、実現容認類、非実現要求類、非実現容認類のすべてのタイプがみられる。

学習者と母語話者の違いとして注目される点をみていこう。

5. 2. 1. 母語話者の使用が多く学習者の使用が少ない形式

まず、母語話者の使用が多く、学習者の使用が少ないものに「ばいい」「たらいい」、「たら(どう)?」「ては(どう)?」がある。

「Xすればいい」「Xしたらいい」は、Xをよい結果を得るための必要十分な要件として提示する意味をもつことから、「X以外のことはしなくていい」という含意を帯びやすい(高梨2010)。このことから、「Xすればいい」「Xしたらいい」は、相手を実行すべき唯一の行為Xに集中させ、他の行為の必要性を考えなくてよいという安心感を与えることができる形式だと言える。

(11) 入院しててもできるところからやればいいんじゃないかな。【J006】

(12) とにかく、病院の中でもできることいっぱいあるし、そういうのしてたらいいんじゃないかと! 【J007】

また、「Xしたら(どう)?」「Xしては(どう)?」は、Xを一つの選択肢として提示するものである(高梨1996)。「べきだ」「ほうがいい」「たらいい」などと異なり、その行為の必要性や有効性についての判断を示さず、単に実行可能な行為の一つとして提示することから、行為要求として相手に対して強く働きかけすぎない形式だと言える。

(13) 前向きな気持ちでやれることだけやったら? 【J028】

(14) 出来る事から少しずつ 試みてはどうでしょうか。【J014】

こうした性格から、「ばいい」「たらいい」、「たら(どう)?」「ては(どう)?」は、いずれも行為要求として相手にかかる負担が少ない形式だと考えられる。

5. 2. 2. 学習者の使用が多く母語話者の使用が少ない形式

次に、逆の場合をみてみよう。学習者の使用が多く母語話者の使用が少ない形式としては、「ほうがいい」が注目される。

(15) 今の内はゆっくり休んだほうがいいと思います。【C012】

(16) いいほうに考えたほうがいいよ。【K021】

「Xしたほうがいい」は、Xを望ましいとすると同時に、～Xを望ましくないものとすることから、「Xしないと悪い結果になる」という含意を帯びやすい(高梨 2010)。このことから、使い方によっては警告に近いニュアンスが生じ、相手に負担をかける可能性がある。(15)(16)は、不適切な表現というわけではないが、たとえば「ばいい」「たらいい」で言い換えると、大きく印象が変わる。けがで入院中という辛い状況にいる相手に対する配慮をこめるならば、(15)(16)より(15')(16')のほうがより適した表現だと言えるだろう。

(15') 今の内はゆっくり休めばいいと思います。

(16') いいほうに考えたらいいよ。

以上、5. 2. 1と5. 2. 2でみたことから、行為要求の形式の選択に関して、母語話者は、配慮に基づき、相手にかかる負担が少ない形式を選択して有効に活用しているのに対し、学習者はそうした選択が十分にできていない点があることが明らかになった。

さらに、これらの母語話者の使用例では、「やればいいんじゃないかな」「したらいいんじゃないかと」「試みてはどうでしょうか」のように、働きかけをさらに和らげる効果のある後接形式が使用されていることにも注目したい。

5. 2. 3. 学習者の不適切な使用

このほか[助言]では、学習者が行為要求の形式の適切に使用できていない例がいくつかみられた。

(17) 今は体に気をつけるしかないと思うよ。【K018】

(18) 説明会や面接など参加できなくてもかまいません。【C026】

(19) どんな生活がしたいか明らかにしなければなりません。【C006】

(17) が不適切な印象を与えるのは、「Xするしかない」を用いたことによる。「Xが唯一可能な行為だ」(高梨 2010) という意味になってしまったことによる。書き手の意図は確かめられないが、「体に気をつけることが唯一必要な行為だ」もしくは「体に気をつけることが一番大切な行為だ」といったことを表現したかったのではないかと想像する。いずれにしても、この学習者は「しかない」の意味を正確に理解できていないと思われる。

(18) では、「てもかまわない」を言い切りで用いたために、相手が「説明会や面接に参加できない」ことを書き手が了承する文のようになってしまい、違和感が生じている。「じゃないですか」などを後接するか、あるいは、「ても大丈夫」「ても平気」などを用いれば自然な表現になる。これらの形式の細かな違いは、指導されることはほぼないと思われる。学習者に認識されていないのは無理もないことだろう。

(19) は、不適切とまでは言えないが、かたい文体的性格をもつ「なければならぬ」を言い切りで用いているため、後輩への励ましの手紙にはそぐわない印象を与える。こうした形式がもつ文体的性格を踏まえた使い分けも、学習者には容易ではないと思われる。

以上、[助言]において注目される点をみた。

5. 3. [受入れ表明] にみられる学習者と母語話者の違い

[受入れ表明]において注目されるのは、母語話者の「して」の使用数が12件と、目立って多いことである。「して」は丁寧形の「してください」に比べて相手との距離をとらず親身な態度を示すものとして選ばれているものと推察される。

しかし、ここで注意すべきは、母語話者の「して」の使用例12件中11件が(20)～(22)のように終助詞「ね」を伴って用いられていることである。これらの「ね」を削除すると、落ち着いた悪い文になってしまうだろう。

(20) 何かあれば言ってね。【J002】

(21) 何かあったらいつでも連絡してね。【J019】

(22) 私でよければまた相談に乗るから言ってね。【J023】

宮崎(2002)は、行為要求の文に共起する「ね」の機能について、「文の機能を「行為の実行そのものの要求」から「行為実行の約束の要求」に変える」と指摘している。

たしかに、(20)～(22)は、即座の実行ではなく、将来もしくは必要が生じた場合の実行を求める行為要求である。「してね」という形は、[受入れ表明]、すなわち相手の支援要請を受け入れる用意があることを伝えるという目的で行う行為要求に、非常に適した表現だと言えるだろう⁷⁾。このように、母語話者は「ね」のような終助詞の機能も効果的に使用していることが明らかになった。

一方、学習者の使用例をみると、[受入れ表明]に「してね」を使用しているのは、中国語母語話者の1件と韓国語母語話者の2件の計3件のみであった。

5. 4. [励まし]・[再会にむけて]にみられる学習者と母語話者の違い

[励まし]は、「がんばって」のように、相手を励ます目的をそのまま行為要求として表現するものである。使用数をみると、学習者に比べ、母語話者の使用が少ないことが注目される。また、形式については、学習者、とくに中国語母語話者が(23)(24)のように丁寧形の「てください」「しましょう」を多く使用しているのに対し、母語話者には1件もみられなかった。

(23) 早く元気になることを考えて頑張ってください。【C049】

(24) 一緒に前向きに頑張りましよう。【C040】

「がんばって」のような表現は学習者にとっても使い慣れたものと思われるが、母語話者は、相手への配慮の必要な場合には、むしろこのような定型的で直接的な表現を避けようとする傾向があるのかもしれない。

[再会にむけて]は、(25)(26)のように、次に相手に会う機会に言及してその時点での行為を要求するものである。

(25) 今度お見舞いに行くから、その時また話そうね。【J020】

(26) 元気になったらまた部活のみんなで飲みに行こうね。【J030】

これについては、逆に、母語話者の使用数が多く、学習者には少ないことに注目しておきたい。

5. 5. 行為要求の形式を用いない行為要求

最後に、行為要求の形式を用いないが、伝達内容から相手に対する行為要求に近い働きをされると思われる文について、簡単にみることにしたい。

たとえば、眠そうな相手に対して「コーヒーを飲むと、目が覚めるよ」と言うことによって、「コーヒーを飲む」ことを勧めることができる。我々はこのような「行為要求の形式を用いない行為要求」を頻繁に用いていると思われるが、それにはどんなタイプの文があるのだろうか。また、学習者と母語話者の間でこうした文の用い方に違いはあるのだろうか。

このような観点から、今回の調査資料である作文 90 編を検討してみると、「行為要求の形式を用いない行為要求」と判断できる文が計 103 件みられた。

以下、どのようなタイプのものがみられたかをまとめる。

〈5〉 行為要求の形式を用いない行為要求

1) 実現要求類に準ずる機能を果たす文

① 行為がよい結果をもたらすことを示す

(27) 論文のネタを探しておくとお後々楽になりますよ。【J010】

(28) 本を読むことによってメンタルも強くなるはず。【C033】

② 行為が重要であることを示す

(29) 今は一番大事なことは早く元気になることだよ。【C022】

(30) まずは体調回復するのが急務だからね。【K039】

③ 行為が可能であることを示す

(31) 就活は病院の中でも全然できるよ！！【J007】

(32) 入院中だってネット使えば情報はいくらでも手に入る。【J025】

④ 行為をしないことが悪い結果をもたらすことを示す

(33) 身体直さないことには何もできないぞ。【J022】

(34) 焦ってばかりで何もしないのでは何も変わらない。【J026】

⑤ その他

(35) 入院生活は知識を吸収して頭を鍛えるチャンスだよ。【J012】

(36) 最後に「○○○」という本をお奨めします。【K026】

2) 非実現要求類に準ずる機能を果たす文

⑥行為が悪い結果をもたらすことを示す

(37) 色々考えてたら、ただでさえ面白くない入院生活がもっと憂鬱になるぞ。【J022】

3) 非実現容認類に準ずる機能を果たす文

⑦行為が不要であることを示す

(38) 頑張りすぎは無用です。【C001】

さて、学習者と母語話者の違いについてであるが、「行為要求の形式を用いない行為要求」全103件の書き手のグループごとの内訳は、日本語母語話者36件、中国語母語話者35件、韓国語母語話者32件であり、使用数にはほとんど差がないことがわかった。

ただし、〈5〉のような文のタイプの区別を観点に入れると、よく使用されているタイプには違いがみられる。具体的には、②の「行為が重要であることを示す」タイプは、中国語母語話者と韓国語母語話者に多く(C:12件, K:9件)、日本語母語話者には少ない(3件)。一方、③の「行為が可能であることを示す」タイプは、日本語母語話者に多く(14件)、中国語母語話者と韓国語母語話者には少ない(C:4件, K:5件)。今回のデータのみで判断はできないが、学習者と母語話者の間に「行為要求の形式を用いない行為要求」を行う際の発想の違いのようなものが存在する可能性も考えられ、興味深い。

6. おわりに

以上、本稿では「励ましの手紙」を資料として、上級学習者と母語話者の行為要求表現の違いについて観察してきた。

観察されたことのうちとくに重要なのは、日本語教育の観点から言えば、次の2点だろう。

1) 学習者には行為要求の形式の不適切な使用がみられる。

2) 母語話者は、相手への配慮に基づいて、相手にかかる負担の少ないものなど適切な形式を選択し、後接形式なども利用しながら効果的に使用しているのに対して、学習者はそのような使用が十分にできていない点がみられ

る。

このうち 1) はいわゆる誤用として目につきやすいのに対し、2) は学習者の使用例をみるだけでなく母語話者と比べてはじめて気づかれるような点だと思われる。すでに上級レベルに達し、さらに高度な運用能力の獲得を目指す学習者を指導するにあたっては、2) のような問題こそが重要なのではないだろうか。

注

- 1) 話し言葉での聞き手、書き言葉での読み手を総称して、ここでは相手ということばを用いる。
- 2) ここで行為要求の形式としたのは、日本語記述文法研究会(2003)が項目として挙げている形式に、いくつかの類義形式を加えたものである。
- 3) 姫野(1997)の「行為指示型発話行為」の四分類を基本に、いくつかの変更を加えたものである。図の太線で囲まれた部分が姫野(1997)における行為指示型発話行為の範囲であるが、本稿では〈勧め〉と〈勧誘〉、〈勧め〉と〈許可〉の連続性を重視して、これらも行為要求に準ずるものとして位置づける。
- 4) たとえば、「てください」という形式は、〈命令的指示〉〈依頼〉〈恩恵的指示〉〈勧め〉のいずれの機能も表すことができる。逆に機能の側からみると、〈勧め〉という機能は、「てください」のほか「お〜ください」「しないか」「たら(どう)?」などさまざまな形式で表すことが可能である。
- 5) 「べし」は、現代日本語書き言葉均衡コーパスを使用した調査によれば、古い文献の引用や韻文だけでなく、雑誌やブログなど軽い文体の文章でも一定程度使用されている(高梨 2016)。
- 6) もっとも繰り返しが多い作文【C050】では、行為要求の形式 12 件のうち 11 件が「てください」であった。
- 7) [受入れ表明]における母語話者の「して」の使用例のうち唯一「ね」を伴わないのは、次の例である。「安心して」という行為要求は、(20)～(22)の「言って」「連絡して」などとは異なり、その場での実行を求めるものである。

・全力でサポートするから、安心して。【J002】

なお、丁寧形「てください」については、母語話者の使用例 5 件のうち「ね」を伴うのは 1 件のみであった。「てください」は「ね」を伴わずに [受入れ表明] に用いてもあまり違和感がないようである。

・また何かあったら連絡ください。【J017】

引用文献

- 金澤裕之編(2014)『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』ひつじ書房
- 高梨信乃(1996)「条件接続形式を用いた〈勧め〉表現—シタライイ, シタラ, シタラドウ—」『現代日本語研究』3:1-15
- 高梨信乃(2010)『評価のモダリティ—現代日本語における記述的研究—』くろしお出版
- 高梨信乃(2011)「行為要求について—日本語教育における問題—」『神戸大学留学生センター紀要』17:1-17
- 高梨信乃(2016)「べし」野田春美編『日本語のモダリティのコーパス調査報告—『現代日本語文法』の記述の検証—』科研報告書(課題番号:25370534, 研究代表者:野田春美)64-68
- 日本語記述文法研究会(2003)『現代日本語文法4 モダリティ』くろしお出版
- 姫野伴子(1997)「行為指示型発話行為の機能と形式」『埼玉大学紀要 教養学部』33(1):169-178
- 宮崎和人(2002)「終助辞「ネ」と「ナ」」『阪大日本語研究』14:1-19
- 宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃(2002)『新日本語文法選書4 モダリティ』くろしお出版

(関西大学教授)